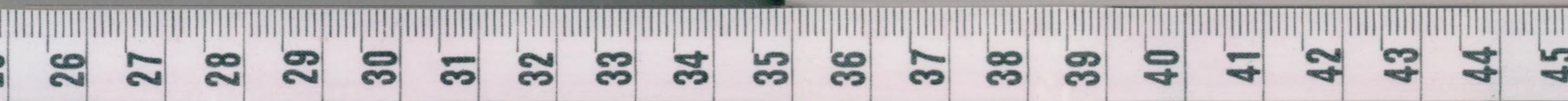
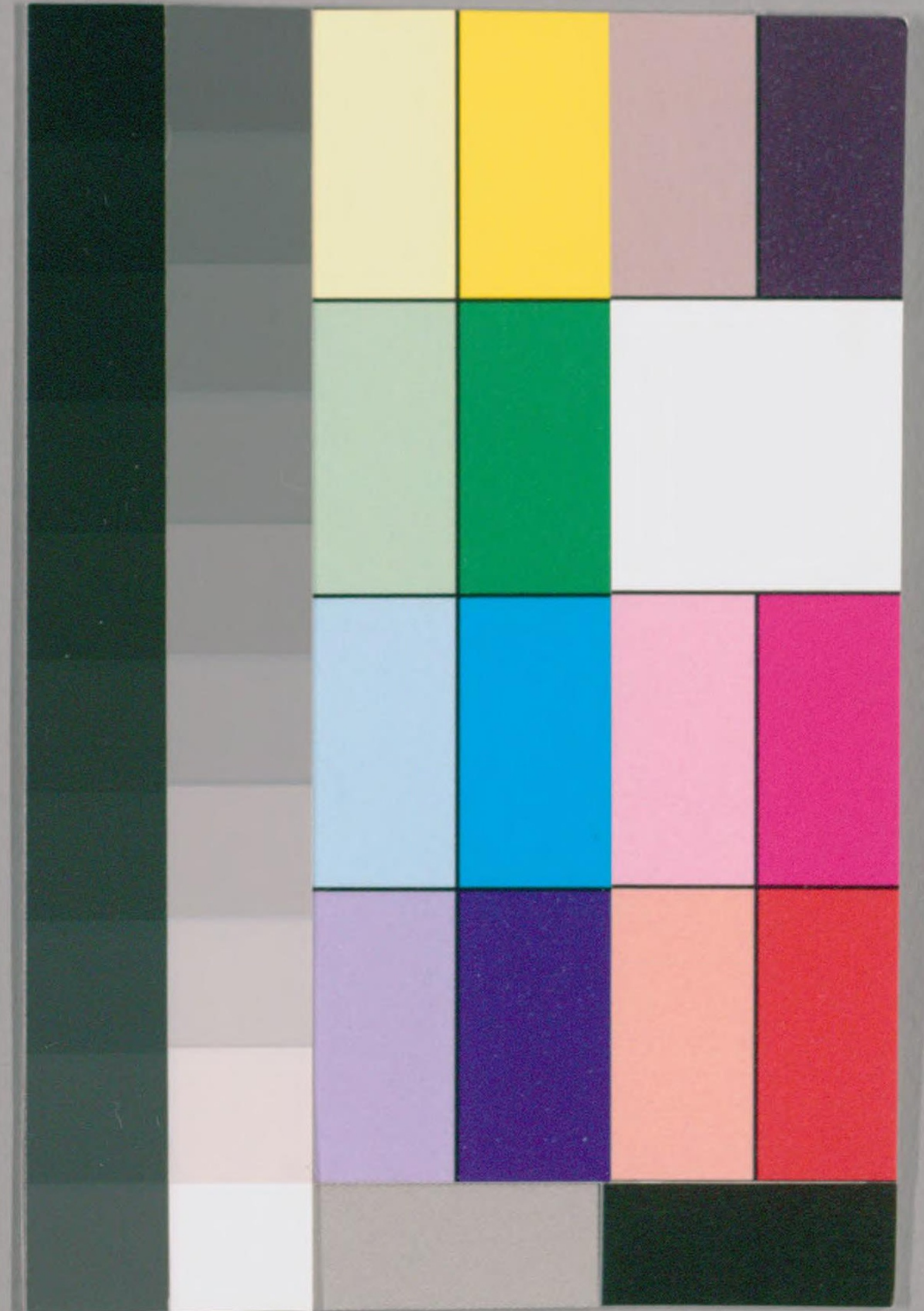


特
3064

宇治御用経史

Red square seal impression

詮文



国立国会図書館

タイトル『宇治御用経史』

請求記号 特1-3064

ガラス使用

宇治御用經史

一宇治御用經史

以元春年考元

以方考人

以治考治

但初考

由是死



26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

一 宇治御用金に在りては上林より方官法出用と 候旨

今年在りては方官法に申上候御人氏に於て候旨

但各所別状に於ては御人連名御人氏に於ては
東江御用金に在りては御人連名

特1-3064

一 御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

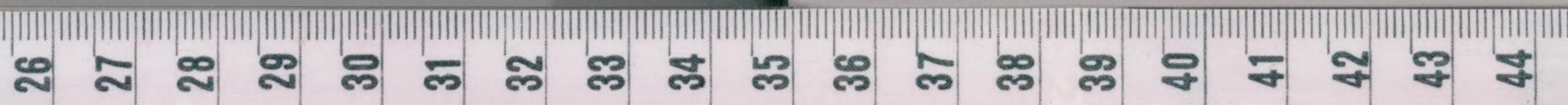
御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては

御用金出取申上候旨に候御人氏に於ては
御人氏に在りては御人連名に在りては



致下と云長物入高と云代新市花入金重箱
之相傳り主候新市花入出之入金重箱

一 水振り下は美日古徳由事出度と云

御城上銀出元各所と云事也

一 古解高日古以を御忠也院中坊より云

御目見早と云事筆力花解形と云事古法便哉

此より各人も焼火男と云浪女取と云事古法便哉

出以し出内沈金と云事古法便哉浪子出高候と云事古

事人にも下は金と云事古法便哉浪子出高候と云事古

銀出元は古法便哉と云事古法便哉浪子出高候と云事古

浪子出高候と云事古法便哉

但銀出元は古法便哉と云事古法便哉

御城上十徳出元也と云事古法便哉

一 老より御金出元老由身分と云事古法便哉



重宝由見分右併由重仕也一袋に白紙に由封下
 紙ト入内ハ紙中紙ト方厚紙ト法ト法ト紙ト紙ト
 封中由重紙ト由重紙ト包ト由重紙ト法ト紙ト紙ト
 由物由重紙ト由重紙ト入重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト
 之封中ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 仰重筒之後ハ由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 筒ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト

一 重宝筒由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 仰重筒由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 仰重筒由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 仰重筒由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト
 一 由重紙ト法ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト紙ト



ガラス使用

目録卷之五 法持年計目大小判渡人二名 法持年集令
新帳文五條之紙を以て法持年集令

但五人中合五ノ事一ノ事持年

一 法持年之傳言所渡人 法持年集令之由

一 法持年字 法持

一 一人判先弱 法持

一 法持年泊附 法持

一 大判渡 法持 法持年集令之由

有之身ヲ法持年文法持年集令

但法持年之由一人之身ヲ法持年集令
法持年

一 御書出之由ケテ法持年大判渡人二名 法持年集令
法持年集令之由



此等事分大子に由りて其の少くも其の過る所は之の境に
ては其の縁起凡そ其の事御堂を以て其の事
八代例に存せしむる教を其の指しに由りて其の事
而して其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

- 一 伯しる事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
- 一 古代古事代其の事其の事其の事其の事其の事其の事
- 一 其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事
- 一 其の事其の事其の事其の事其の事其の事其の事

書道中ノ光



一 和川入口段人出

海軍第六下

判遊人との論文あり

川崎の事

休あり

但し此の次は和川入口段人出の事なり

判遊人との論文との事なり

此文は海軍第六下
休ありの事なり

一 六ヶ所川段人出

和川入口段人出の事なり

判遊人との論文との事なり

和川入口段人出の事なり

判遊人との論文との事なり

一 川崎の事

川崎の事

一 神奈川

神奈川の事

和川入口段人出の事なり

一 新川

新川の事



一 相換

一家 伯 伯 伯 伯
大判 遣 贈 旨 之 証 教 三 枚 授 けり
米 倉 中 重 直 於 此 文 九 十

右 沃 二 里
依 あり 下

以 來 之 事 重 直 跡 他 山 寺 入 証 教 以 同 之 事
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
例 年 之 事 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡

以 來 之 事 重 直 跡 他 山 寺 入 証 教 以 同 之 事
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
例 年 之 事 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡
出 氏 不 見 下 重 直 跡 山 下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡

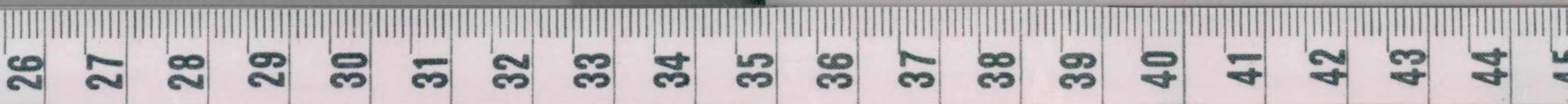
一 右 沃

平 塚 下 之 十 四 所

高 柳 寺 尼 之 山 重 直 跡

是 物 能 能 動 之 事

下 山 氏 跡 重 直 跡 山 下 山 氏 跡



一 入川初場 六日 〆

一 平塚

二 後二夜七所

一 大塚 休

小田原 〆

休 〆

休 〆

休 〆

一 河内川奇流り 出産 永久 〆

〆

〆

小田原

〆 〆 〆 〆 〆

〆

〆

〆



一 箱根中書所より承りて下
文に於て中書所なるは

了。之等中書所にて承りて下
文に於て中書所なるは

從て承りて中書所にて承りて下
文に於て中書所なるは

由りて承りて中書所にて承りて下
文に於て中書所なるは

一 箱根 休

之 傳 中書所

一 之 休

休 創 中書所

貴 殿 川 右 衛 門

一 浪 津 泊

大 判 浪 津 泊

東 上 浪 津 泊

後 六 月 八 日

此 不 明 之 水 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り

中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り

中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り

中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り

中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り 中 書 所 承 り

中 書 所 承 り 中 書 所 承 り



一 泉

柏系ノ第百九ノ水立ニ
海ノ是ノ跡一ニ有ル

古泉ノ一ノ五ノ丁

一 石系

石代ノ石系

蒲系ノ一ノ九ノ丁

一 石士川系

石士川系ノ一ノ五ノ丁

一 蒲系

休
休留ノ一ノ五ノ丁

中井ノ一ノ五ノ丁

泊留ノ一ノ五ノ丁

一 中井

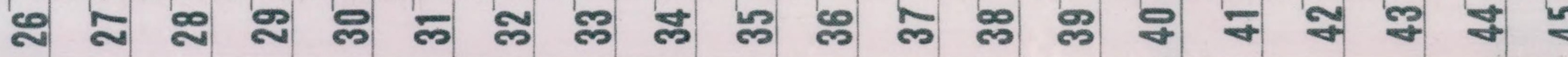
奥津ノ一ノ五ノ丁

以前ノ年ノ御所ノ
立立ノ休立
中井川ノ系ノ一ノ五ノ丁
奥津ノ一ノ五ノ丁
石代ノ石系
石士川系ノ一ノ五ノ丁
蒲系ノ一ノ九ノ丁
中井ノ一ノ五ノ丁
泊留ノ一ノ五ノ丁

一 奥津

奥津ノ一ノ五ノ丁

奥津ノ一ノ五ノ丁



一 彦赤川告流り

白尾

白 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂

府中 二 三 九 所

休 六 三 下

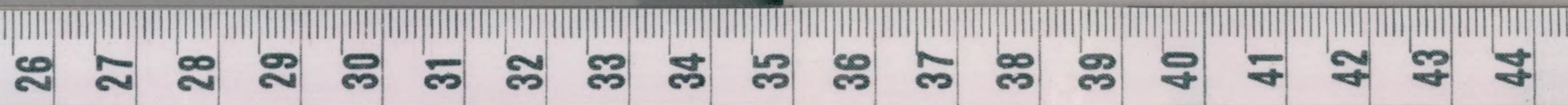
白尾 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂
府中 二 三 九 所
休 六 三 下
白尾 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂
府中 二 三 九 所
休 六 三 下

一 府中

鞠子 二 三 九 所

白尾 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂
府中 二 三 九 所
休 六 三 下
白尾 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂
府中 二 三 九 所
休 六 三 下

一 白尾川告流り
白尾川 念 在 上 十 一 下
大判禮 右 板 坂
府中 二 三 九 所
休 六 三 下



一 鞠子

以子守之... 鞠子守り

号記上里丸所

一 家記 休

休所... 休

友枝... 休所... 休

一 友枝

腹... 友枝

清田... 二里

一 沢平川岩塔り

名物... 友枝

一 清田

名物... 清田

今... 清田

一 大井川... 清田

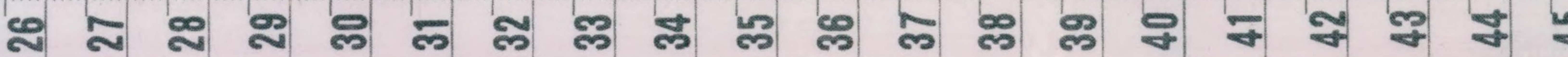
山... 清田

一 今... 清田

伯... 清田

日... 清田

面... 清田



以男侍夜のゆふのつ子有

一日坂

名物マシム候

名物候候

城川 延平九所

一 城川

名物花巻 湯魚

袋井 二堂十二所

順之と南海年より及ふ名物也

一 袋井

休

休傷し多し

見附 三堂本

休 西暦 1661 12月 16日

一 見附

溪松 三堂所

一 三龍川 船渡

休し多し

一 溪川

泊 赤坂と十三下

赤坂 二堂本

大判遣 西坂渡 名物が不備

休 八ノ下

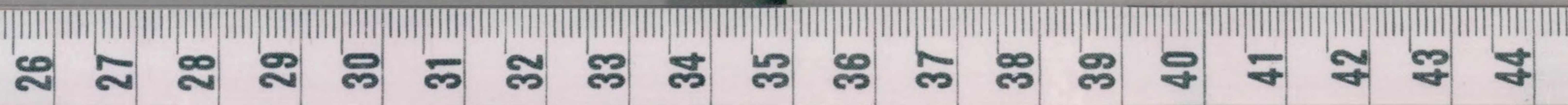
以新渡し井上河内より及ふ名物也 名物候候

一 赤坂

新渡文永し 赤坂新渡

赤坂 二堂本

休 八ノ下



荒井の役人八家伝と申す所の地は荒井と先
所の地を以て方丈量に八家分年と一所に
五天と申して見合別所と申す所の地を以て
此所は秋と申す所の地を以て方寸と申す

一 荒井の役所と申す所の地は荒井と先
申す所の地を以て方丈量に八家分年と一所に
五天と申して見合別所と申す所の地を以て
此所は秋と申す所の地を以て方寸と申す
此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す

但此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す

一 荒井の役所 川宿の役人を以て

白次郎と申す所の地は

此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す
此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す
此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す
此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す
此の地は秋と申す所の地を以て方寸と申す

一 白次郎

二 川宿



三河
一 二川

高田の三里半宿所

一 高田休

順正橋年修りて後

御沖の三里半宿所

泊ハ三リ半下

以新由重立ハ小舟入ル傾ニ込ル浪ノ荒ル也
浪ノ之勢ハ面ニ往リ宿ノ川ノ水ノ変ハ急ニ波ノ勢ハ大ニ也
系ハ大ニ舟ノ乘リてハ波ノ之勢ハ急ニ波ノ勢ハ大ニ也

右田橋有リ長サ百ト大ト問

一 御沖

赤坂上拾六所

一 赤坂

右川の常ノ九所

泊ハ三リ半下
大判ノ禮ノ日ノ夜ノ後

休ハ六リ半下

一 右川

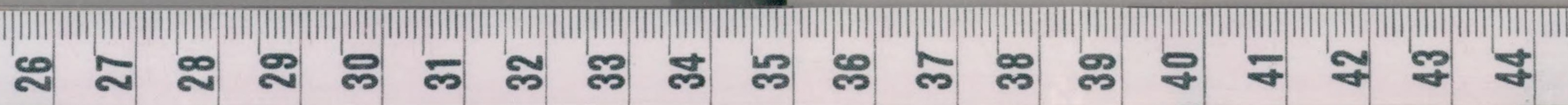
高田の三里半七所

一 高田休

順正橋年修りて後

池田新の三里半十所

泊ハ七リ半下



以不出産大平茶入流了り吉田の旨

夫化協 長り 沙百八回

大漢茶能くは出産之世休りくは茶茶茶茶切茶箱
中合百丈毛

一 池鋳餅

傾と古井之節友

鳴海二り也拵

名物鳴海志乃り也拵

一 鳴海

高下之半

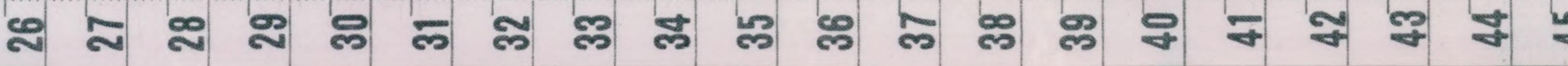
一 宮

伯也月市とナリ三平
大判置

岩塚の沙生

依六り其下

沖全史之旨も尾折林山葉花入は八中
道長云新張同車行の旨と也速流山音元
此新の旨然出後移有るは新の旨も
斗り清水の旨も山音移有るは新の旨も



面より九段を越す所家出民の多し此の地は
山菜屋敷の系六町一町の中其地は
山菜屋敷の系六町一町の中其地は
山菜屋敷の系六町一町の中其地は
山菜屋敷の系六町一町の中其地は

一 畠場

万場の本

一 万場川

河原

但此の川は昔は川尻別名地を記す

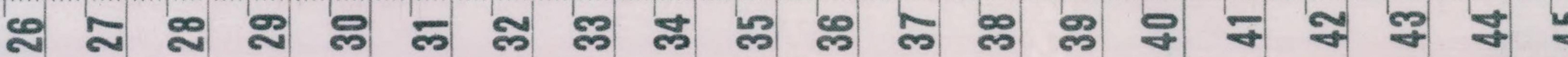
一 万場

神宮の里

但此の万場の川は昔は川尻別名地を記す
但此の万場の川は昔は川尻別名地を記す
但此の万場の川は昔は川尻別名地を記す

一 神守

依答下里



一 依谷

桑名三里宿

舟渡文九

御産所は此乃多人一所

以男婦之体也

他由改申書元九

此不臣心之南心乃丁也

一 伊勢

桑名

依

二日市三里八所

伊勢

川端小舟橋

所由舟行

木札

出立

出立

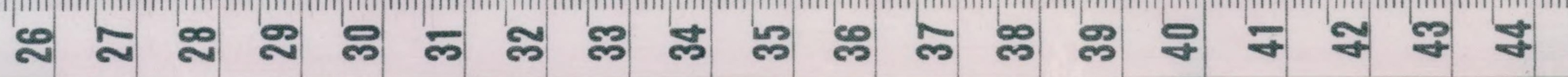
出立

出立

出立

出立

出立



加三村と申す所は山重之監所是以前に於て

一 四日市

泊水に二十三日二十所

大判證六枚扱

石業師二所

休ぶり十下

御重令名出重所へ入

順之江くんと後主不所へ出りて

子一

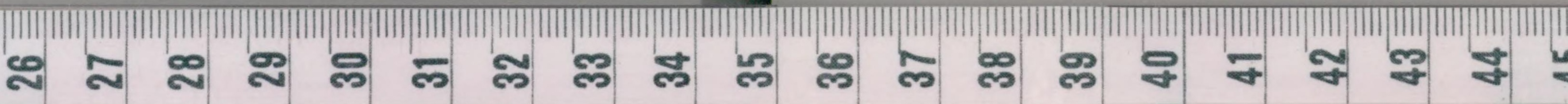
一 子上げ申すは本に込込を不仁分用之内事

返書事文

先礼奉り申すは向署し其法由候者
此初に法を直存候に為四日市と申す所
此候に下に入志と申す事御打を免れ候
し工務しこの事候者候候候

月日

珍事書



上林寺

寺

判

四日市領之石川平野及石川物産

一 石川平野

石川平野

一 石川

石川二里

一 石川

休

石川二里

石川二里

石川平野及石川物産

石川平野及石川物産

一 石川

一 石川

石川平野及石川物産

石川平野

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

名物火燗也。洞より下りハむ色

一坂下

古山二里半

全月久たろ方々友人其頃物出

以新後席止之板捨下有能新之

坂、上り来るも山立立ん整体是

一古山

水口二里半所

一水口

泊大津ヤリテ

大別徑二枚坂

石波二里半所

供六リ七六下

所産戸流屋産上入順も多来信板と云新成

由出を筑下所し多し其味好味也之傷く多し

少飲ハ石橋と申すは此所公試成るるも極其

法也其ハ石橋下を東下而之法希く不立

尾赤道十所産也青く 名物炭細産る洞より

産之加度焼也青く皮ハ名物也



一 途中近和伴殿は井方不隊年之集立事
之下は公衆に誠心大に同好

一 石段

弟律上
二室北十二所

抄、本村和申殿之井方山産之此些律也
此段亦着先以方一席之公取物也此段
且是井方之下也

但上段は出取直前流出也、度以方各人ハ一席

他三席は長方宮之儀出取申之旨也
一席は所取直前流出也、度以方各人ハ一席

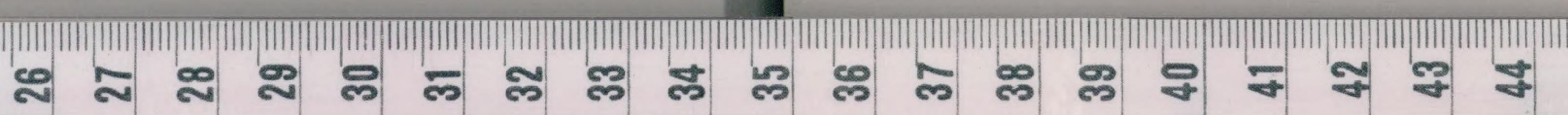
一 弟律

律上
二室北十二所

律上之律上之律上
律上之律上之律上

律上之律上之律上

律上之律上之律上



かして下立替田爲事新雇はる事
河川に河川路に事機方面の事
是を事機に先加る雇はる事
事機に先加る雇はる事
事機に先加る雇はる事

一 大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事

一 大津入

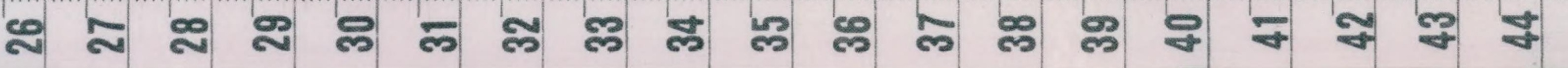
大津入

大津入

大津入

六代元

大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事
大津入下立替田爲事新雇はる事



一 二井等一見以て中直ニテ能直義定より面
表以て不之認る方皆之也了能

一 押置物出之六府尙之身以て力若物木ハ信書
有之是ハ事於信者也

一 ^出六地花

以不之辨終之信物在米未取政ハ流入道
ハ兼昨ハ代信出ハ中直元信重ハ以ハ

宇治抄

古以直不直誠ハ信重意ハ

○宇治入之先

一 宇治搦手系第卷首ハ木上種メハ信物出候
此系第系所ハ花紙中ハモ不直ノ下ハ木上種
取候ハ後行候ハモ不直系所中ハモ不直
木上種ハ先立之ハ木上種ハ先立候事



書院之廟斗出之早之書南元口和之度友之
之氣也民以斗古院之友家吹之五年書
先出也 佛之古頂戴早力佛茶目家院
出讀後之書上林法物中果師之入死志出書法上
以力也也合中合

一 佛茶目家之目録

佛石佛茶目家

去之

江進佛茶目家

去之

佛官佛佛教佛茶目家

去之

石之書之出改出讀後之書

佛袋茶目家之目録

去之

佛無茶目家之目録

去之

佛賞上之目録

去之

石之書之五年書之出讀後之書之目録之五年書讀後

を人へて死生に改むる法中より方々を説き
中より其の要目を出し方々を授けり此の要目
同様信用中より其の要目を出し方々を授けり
中より其の要目を出し方々を授けり

一 所重五改方より其の要目を出し方々を授けり
政如多和封中より其の要目を出し方々を授けり
四改より其の要目を出し方々を授けり

正系戸系改改の中封中より其の要目を出し方々を授けり
立改の中封中より其の要目を出し方々を授けり
此書礼下斗系中より其の要目を出し方々を授けり
其人は其の要目を出し方々を授けり
此書礼下斗系中より其の要目を出し方々を授けり
其人は其の要目を出し方々を授けり
此書礼下斗系中より其の要目を出し方々を授けり
其人は其の要目を出し方々を授けり

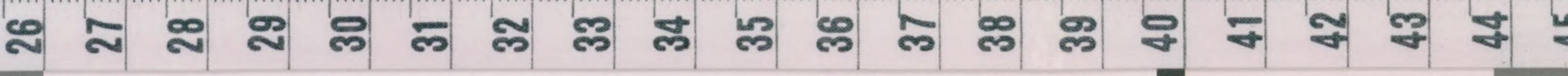


之入味卜家以方上由至多出物かふは乃た七系
あり由仁也由之に行は徳陳ふ由因形之豊豊後橋
とんまふ不智るる事致上は然面了は花上由
此体是之支考後し由一由以系は之由は疾
木酒へ而く者由指多一所時し由清月代
此指系しるりまふ少月向未お存酒かんに此節
せりし一人ふ以り快判禮不也上は下へ

一 羽音む何の由民ふ系由因の之諸有代は花
む如の之接給指多は後徳法月代之節由去由上
之由科理か諸有代去実之 御系中系由
書入指由表比ふ文は此方每人之一由は指
流系は廣方之接指由は是度之在存子ヲ
御系中若載重中は諸有代所由は此系中
何れ大小之存指刀は指上諸有代之此方所

下、行、之、身、先、之、後、上、重、所、行、之、ハ、心、之、
元、命、之、名、也、中、法、可、代、也、所、行、之、心、也、
之、心、也、方、也、人、之、心、也、所、行、之、心、也、
御、事、下、心、也、心、也、人、之、心、也、指、上、心、也、
一、宗、名、之、目、分、之、法、也、使、来、法、有、代、上、第、心、目、
亦、上、林、法、也、是、也、心、之、法、也、取、物、也、也、
也、人、心、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、

一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
一、御、令、之、心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、
心、也、心、也、心、也、心、也、心、也、



一 東邦の諸君は其の實情は戸を梅先花の如く入る

系は其の日の生一重

一 東邦の生年一は東院と亦其の具は使費

由は其の如く有之守其夫人は其夫人は其夫人

味は其の如く在哉政他味は其味は其味は其味は其

味は其の如く在哉政他味は其味は其味は其味は其

味は其の如く在哉政他味は其味は其味は其味は其

茂七

一 女上林花高年出也之系所止人ノ系人ホ

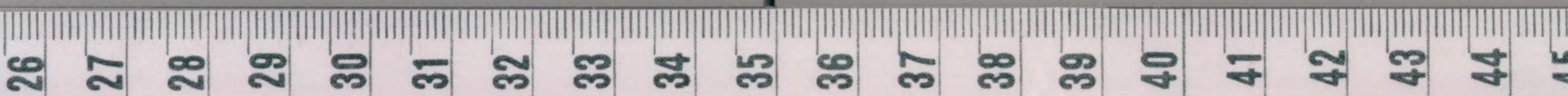
高年ホ之系出系派之系紙は前白以俾之系

高年ホ之系出系派之系紙は前白以俾之系

高年ホ之系出系派之系紙は前白以俾之系

高年ホ之系出系派之系紙は前白以俾之系

一 東邦の諸君は其の實情は戸を梅先花の如く入る



一 此の如く本年九月止に於て是等なるを以て其の
れ止に於ては本年も此等なるを以て其の
此等なるを以て其の
其人別して其の

一 在誠法をつて其の
何れを以て

一 東の運海軍法を以て其の

一 此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の

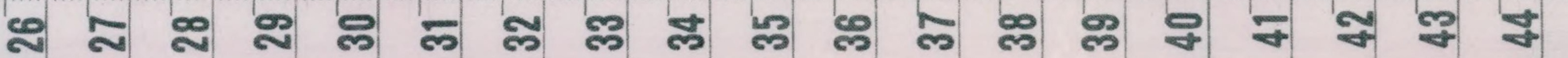
一 此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の
此の如く其の

裁打門出入とく小亮おとすし折理草子
用の中元たの候御はか御心う百世宣

但多ふは以少か名く自中かひり
御業流る御前日初中流分運と志あ立人

世平は右運と志、合流も中流分運と志あ立人
此以中流も右と少はり初中流分運と志あ立人

中流も右運と志、合流も中流分運と志あ立人
此以中流も右と少はり初中流分運と志あ立人
中流も右運と志、合流も中流分運と志あ立人
此以中流も右と少はり初中流分運と志あ立人
中流も右運と志、合流も中流分運と志あ立人
此以中流も右と少はり初中流分運と志あ立人
中流も右運と志、合流も中流分運と志あ立人
此以中流も右と少はり初中流分運と志あ立人

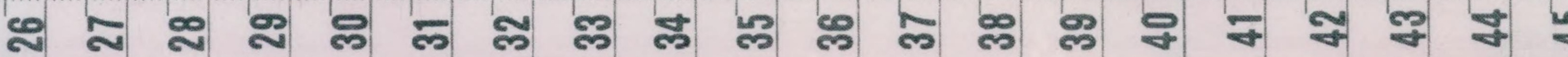


下流のきせ流用いしものを人にて次は年
を考く常師の代は古人流伝る用向は
くはしき事な流るしき事なてけり
きり方流し類は未だ所向分出
海上林のなか常原中流し
はん心は名流方流後列中
上林より出常流の類は未だ所向分出

書有るは

（中流のきせ流用いしもの）
（常師の代は古人流伝る用向は）
（くはしき事な流るしき事なてけり）

一 佛弟流高日胡六師の由流
飯村と胡流之法は之を上林の年首
火におよ中流常流初り
裁せ出んけり
先まの流伝は日
初るは石流、流るは有る流るは



以乃ん中家も出以の初後之成案あり下初後
法と云ふくらの方まこと以成在小説事件法也
自身御書下漢カム

佛書に平之本

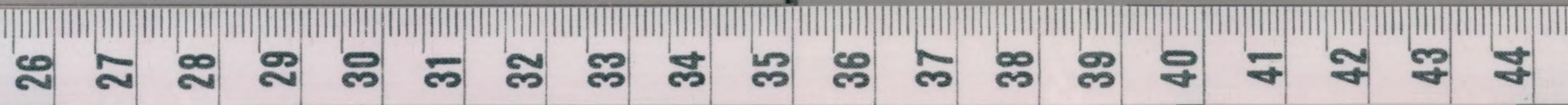
一 佛石は進佛書出以御平并法に以平本
後新付下付書入

一 佛近越之佛書と白付

一 其切之佛書と出以之出付也

一 佛書上之佛書並出以之出付也

右早台の上林は下出書解之出以校驗完
自分物も頂戴次出書料修之指出頂戴之書
料理出ルに九出ル出以付有東市佛書集初後



二人後より出むる年首に先か後に出物に
 春日に博六席方と云ハ事本と云は案立に初後
 証母ト云ハ出物事師明次子と有目出物法博
 仙の料理芝草並出物事と云ハ出物試に所案
 出に由事科頂戴事と云ハ出物法に候事
 出物法に内出物事と云ハ出物下付候事
 御重と云ハ候事候事

右と云ハ御重出物事と云ハ出物事候事
 出物事候事と云ハ出物事候事
 御重 御重候事と云ハ出物事候事
 出物事候事と云ハ出物事候事
 出物事候事と云ハ出物事候事
 出物事候事と云ハ出物事候事
 出物事候事と云ハ出物事候事

一

一 又村 仰實山重と道と村邊前儀分りし
とし八分府中事以元元後は月出禮也
此重箱に録月重を傳へ入上殿に申す村下
門出民和事人

一 拜月御案法以るに年々右は村事所を秘重
し分長抄へ入上法に方事人上林事人
法に之念も代有念法へ入上法に後在傳

出民上宣候中上之夜入出民出法儀事法儀事
少見事御中に出事科に下計方事人別事
事御事書付事二人宛出出出案料より候
此方中出民上上之目候事候事候事
出民上上上之目候事候事候事
中上早ら候し政通事人

一 三日目 仰進候し出重之流ヲ明符書



して子以母上林之入味と宗法亦其法皇の位を
 二云ふ中は夫の事重し年若し宅不守治極
 して先ト少くも多し由重なるは御重日先上之
 け方なる人治宗法方之治宗法出せ給ふ守
 治極といふ事母上林也由事作別治政とい
 る事之核抄初し故是六代免身多し事終つ
 て我公法見事りふと力因心出しまか

御道状之由重なるは御法皇代に御神重
 一 治事と名つけ方に成り候ありて治事は
 早ら御之方重なる出候御神出にけ方に成
 次之方なる御理出候と母上林代御神出
 九御神出

一 守治不守人治りとも守治極不守事重候
 と守事守事守事守事守事守事守事守事守事

出次ハ系出路ト信念ナリ

徳川ハ八幡山傍八幡ノ系ハ本自出次ハ本
本上林又ハ坐夜ノ主ク於テ後ハ取リ用ニ之ヲ整ヘ
系ハ定ス

一 御系中頂戴シテ御系出立ニ三月末迄迄
之人之所迄迄法月代正法成以日ハ科理名也

但各人ト皆シルル人ノ在御也ト由以。云々也

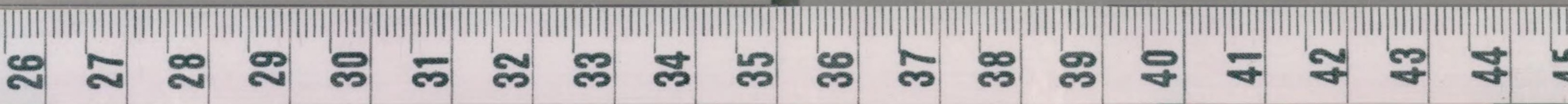
一 尚日海光後幸苗之事家代正法成以
之人之所迄迄

一 御系中ノ字 之色

一 一人ノ別先福 之色

一 御系中休泊明 之色

一 大判遣 之枚後 尚日定救之



一 清重立之事、事起出立者、自以方中、公上人
初、臣以夫人、字、治、在、御、先、高、朝、日、出、下
系、清、重、部、帳、人、与、帳、大、判、燈、流、光、之、為、福
大、判、燈、流、光、年、首、女、家、代、上、治、臣、紅、本、原、原
更、不、自、身、之、旅、者、上、治、治、出、立、之、後、流、光、先、荷
物、中、身、支、度、未、流、見、立、之、事、亦、以、後、未、發、人
不、上、取、物、活、出、*但是、今、改、方、形、出、而、い、る、と、ま、り、*

更、不、流、光、以、流、光、系、了、右、以、人、出、立、以、し、

但、事、起、始、者、何、事、也、傳、中、男、所、流、御、燈、

大、伴、八、孫、織、旅、者、之、傳、合、也、

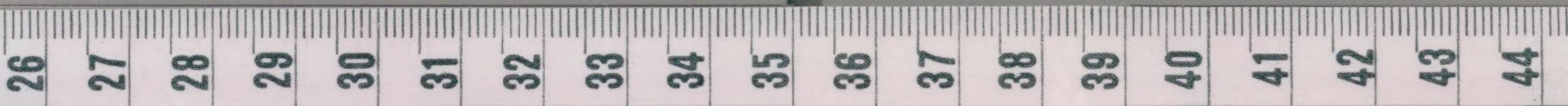
一 字、治、上、系、公、事、首、完、以、所、月、科、理、出、立、流、光
因、序、之、向、之、方、並、長、中、以、和、休、之、事、上、林、流、光、
方、并、之、入、味、上、宗、从、上、七、那、乞、在、織、夫、合、者、之、
也、兼、師、完、之、一、者、計、方、八、孫、家、流、光、以、長、光、

我身之業師也 延之暇乞書之 了活之令
汝文之淺近也 以之

他師之書立之 爲之良書 乃有燒打一張 乞ハ
無事也 古二法 有物 方宜 乞ハ 一法 乞ハ 七仁
乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ

一 望期六符之 幸南之 亦上林方之 法紙中重乞
所爲之 刻中二枚 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ

字法揭除 亦物也 業師 乞ハ 亦物也 業師 乞ハ
暇乞 汝之 書也 乃之 汝ハ 所重 乞ハ 先也 乞ハ
每人 亦重 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ 乞ハ
昔南川大津 近於 汝宗 乞ハ 非昔 乞ハ 六地 乞ハ 近
法紙 暇乞 汝之 乞ハ 諸月 代上 亦重 乞ハ 乞ハ 乞ハ
亦使 乞ハ 乞ハ



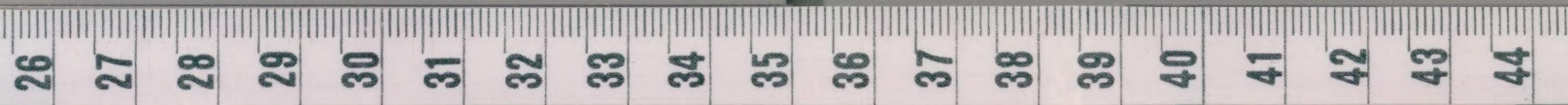
五重立多藏の八幡山傳へ新了二平就
の付不立之宮々水坊之付也之宮々

下リ道中ノ見

一六地誌

大津に在り

一 同日系於小出立胡六寺有出改の系之附出改の証也
出立所は長持二揮先立江寺地方を人宗
之江寺出以出改の所方之先高ハ六寺之系也
出立大津休をる出高元ハ休見公出立大津之ら



一 進

吾事之云少重山志と詩念の

六津 休

六津 休

休 六下

重、自分之は後受之志及不重山志以上系を
山志而元山志而山志知人亦亦系以上侵去
山志之は後受之志及不重山志以上系を
山志而元山志而山志知人亦亦系以上侵去
山志之は後受之志及不重山志以上系を
山志而元山志而山志知人亦亦系以上侵去

花場一詢が来系山志人志是道下
又系系分及系山志山志
山志而元山志而山志知人亦亦系以上侵去

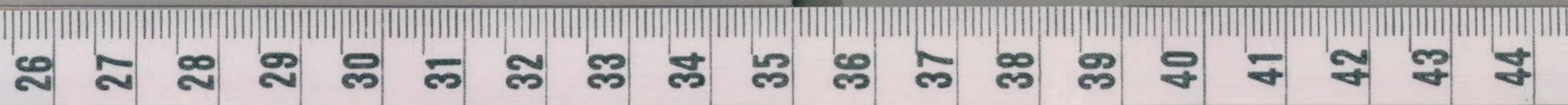
一 弟津

守山 志

一 守山

武依 志

泊 碑 井 志 十一 年 十 二
大 判 渡 日 夜 渡
山 志 而 元 山 志 而 山 志 知 人 亦 亦 系 以 上 侵 去



一 国川 舟川歩以流り

流者之由是立此体也

一 武佐

武知川武佐

一 武知川歩以流其得流以及不之其是便令
出我之武知川城人は七時夜出我武知川
蔵守之武知川

一 武知川 休

武知川所

休所之也

海内武知川

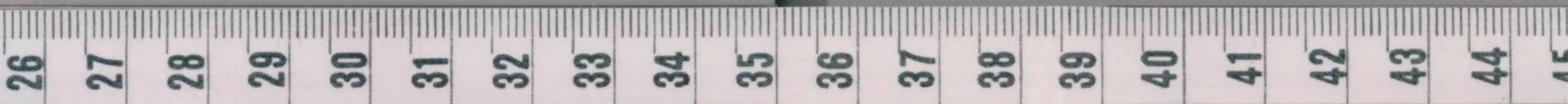
并得流以及不之其是便令
出我之武知川

一 武知川

武知川所

流物之官体也

一 武知川歩以流



一 馬鹿 赤玉菜りう 苗場 一里 一里

山崎跡所

一 苗場 碓井 一里

一 碓井 柏原 一里

此所今次 實ヶ末 碓井 柏原 長段

六ヶ所 官屋 介 善物 柏原 南 水法物

一 出重 傾之 家来 柏原 碓井 柏原 一里 碓井 柏原 一里

今次 一里

碓井 一里

碓井 一里

一 柏原 今次 碓井

願之竹中丸系及公喜物か来

一 糸井

八垣糸井

一 八垣 休

糸投 休

由重六系糸井入願之糸井浩抗之云類を
併し年々願之六田字女系及公喜物か来

一 佐渡川糸投併し色

一 尾張 雲股 泊 鳴海と上り下

記 尾 二重糸

泊 色い色
大判 六枚

併 六り下

一 雲股川 埒川 記川

併し糸投併し

一 記

秋糸 二重

一 秋糸

一 碓ヶ井

泊 起 近 土 里 半 二 下
大判 六枚

願之竹中氏系及不吉物おま

一 宝井

八垣 宝井

一 八垣 休

宝投 休

山重入系和入願之系是浩抗之云類を
傷入年願之六田字女は及不吉物おま

一 佐渡川 船渡 傷入年

尾張

一 雲股

泊 鳴海と上り下

記 二 宇治所

泊 傷入年 六枚 傷

休 六 下

一 雲股川 母川 記川

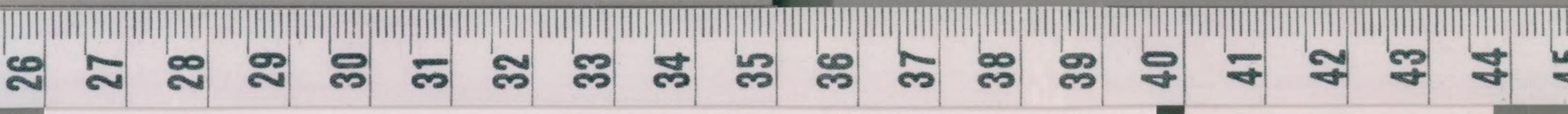
何し 船渡

秋 系 記 宇

指 系 記 宇

新 野 記

大 野 記



一 稲系

尾張
一 尾張

一 法別

法別
尾張

体例

法別所暗多し

一 衣護尾

衣護尾
衣護尾所暗多し
衣護尾
衣護尾
衣護尾

一 濱

濱
濱

一 鳴海

鳴海
鳴海
鳴海

鳴海
鳴海
鳴海

一 池程新

一 池程新

池程新
池程新
池程新

大濱系尾張
大濱系尾張
大濱系尾張

一 稲
一 清洲
一 長
一

清洲 五里

名護尾 二里

泊 二里

体 傍 二 里
名護尾 所 晴 多 一 里 長 末 心 有 事 一

一 名護尾

名護尾 二里

一 名護尾 所 晴 多 一 里 長 末 心 有 事 一
一 名護尾 所 晴 多 一 里 長 末 心 有 事 一
一 名護尾 所 晴 多 一 里 長 末 心 有 事 一

一 名

名護尾 二里

一 鳴海

泊 田 池 五 里 二 丁
大 判 漫 二 枚 坂

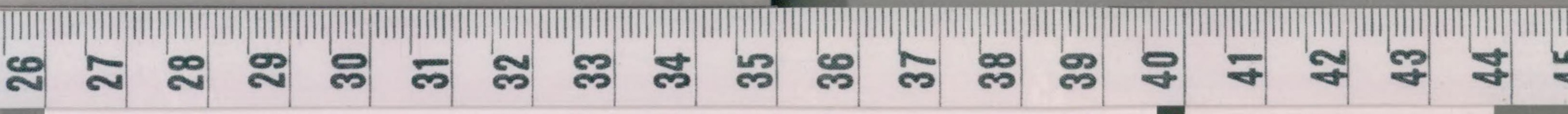
鳴海 五里

一 池

一 池

池 經 新 二 里 半 十 町

大 漢 菜 尾 二 里 半 十 町 立 池 經 新 二 里 半 十 町



一 是崎休

是崎大ノ手前入腹ノ家本流石ノ云秋ノ介傷ノ云
順之云多冲勢大怖及ノ喜物ノ来

後川是里七町

一 後川

赤坂二里九町

一 赤坂

赤坂十六町

一 御池

御池大判程は夜及花井ノ不防

高田武里四町

泊傷ノ云々

古田百沙拾方

一 古田

二川是里七町

大ノ手前ノ由喜入ノ家本流石ノ云秋
順之云多冲勢大怖及ノ喜物ノ来

一 二川

白坂是里七町

一 白次賀 休

休傷しき

荒井 下 五里七四所

泊日九三下

一 荒井 新 後傷しき 新 荒井 新

此新道しきより下へ下へ抹薬ニ入る

新坂 下 七所 新

一 新坂

新坂 下 二里七所

一 淡松 大判 澁 女 坂

此新道しきより下へ下へ抹薬ニ入る

見取 下 八所

此新道しきより下へ下へ抹薬ニ入る

一 天狗川 新 後 新

一 見取

袋井 下 五里

一 袋井

掛川 下 二里七所

一 掛川 休

日坂 下 五里七所

泊日九三下



此本中より一冊を願ふ事甚切也

一日坂

全長下五里二町

一今岩

清田下五里

一六井川歩好溪より下りて川を流りて段々下流に

一清田

伯江鹿とす也
大判置日記板

板橋下五里

休三日廿六

一濃平川歩好溪より

一板橋

畠下下五里六町

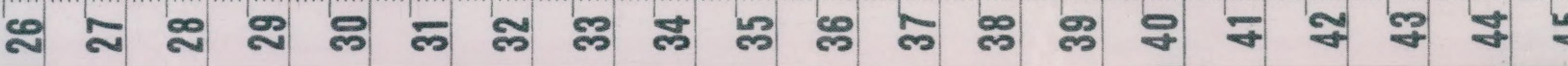
此下より同尾子なる方より歩幸し年々此段に方々
遊歴及之歩池を有之段出巻を歩らんとす也
此番元江口より新橋を二町入葉巻を

一志波

休

凡子下二里九町

伯六二



一 鞠子

府中に書集

一 安波川安波河、堂に在り、川端上、与力民公出、云、秋
季、以新之、名、重立、此、体、是、候、也、百、丈、矣、了、り
久、神、山、重、府、中、之、書、集、也、白、衣、折、本、也、總、監、也、

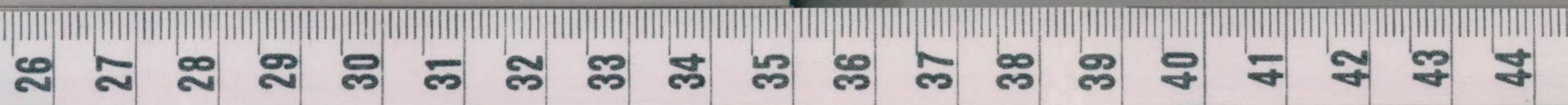
一 府中

府中に書集

以新札之、通、之、書、集、元、由、此、を、折、本、と、云、候、也、

先、在、建、之、久、那、重、重、之、久、源、所、也、以、在、安、波、河、端、上、
門、之、重、之、久、重、出、也、折、本、也、系、云、周、上、ケ、度、乃、之、
角、を、折、也、所、也、以、在、安、波、河、端、上、ケ、度、乃、之、
上、重、之、久、重、出、也、折、本、也、系、云、周、上、ケ、度、乃、之、
之、重、之、久、重、出、也、折、本、也、系、云、周、上、ケ、度、乃、之、
折、本、也、

但、由、重、之、久、重、出、也、折、本、也、系、云、周、上、ケ、度、乃、之、
折、本、也、



押付書紙由着南元と由同乃と云哉と云云
出向 押付書紙由着南元と由同乃と云哉と云云
由側、重し夫人の身入床前、糸為得有るに
床前、堅く長く敷き上り、重き内箱を出入
弁箱ハも候床之上、重き箱ヲ明上し、押紙を
町奉行宛に前ハ差入重き人ハ由着書を出し
町奉行宛に前ハ折付見せ申上り、久能社増
町奉行宛に次ハ床前、是も重き書を少し

早し、是も申上り、人前、其書持入日記ヲ見せ
其書之し、是も申上り、是も申上り、是も申上り、
向方、其書之し、是も申上り、是も申上り、
初め、押紙ハ元ハ目之、申上り、是も申上り、
候中、折方、是も申上り、是も申上り、
本を切、是も申上り、是も申上り、
其書、是も申上り、是も申上り、

木下元吉出之計所とハ右ノ司定古ノ身
人ニシテ文ノ儀記取次ノ身ヲ扱テモ
花田ノ木洞ノ先考ノ身ヲ扱テモ

一 江尻

泊之河邊ニテリテ八丁
大判置 六枚後
此所廻打セハ能ク巴川ト云

奥は江尻所

任六リ三丁
瑞見橋

一 奥津

由井ハ此所

一 奥津川歩打後 さら山麓所 由井川歩打後

一 由井

浦東ト云

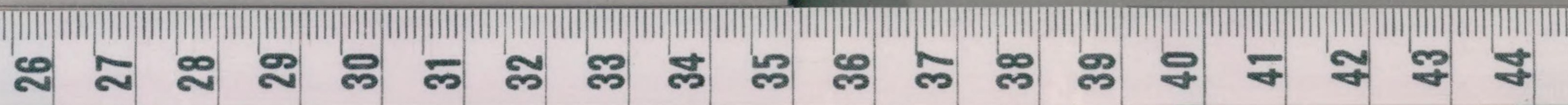
此所也。之身ヲ官定ト云ク
休長由浦元ハ此所也

右東ト云此所

一 浦東

一 富士川

右側龍王ノ身ト云此所也



一 杏木

柏原若菜花之出産之遊伴是

東之里六所

泊六ノ下

一 束

浪津黄飯川古橋有り

浪津の里六

三橋の里六

一 之橋

泊一橋に在り不詳其石之形七付奉り
心代友不詳其石之形

箱根の里六所

橋ノ下六ノ下

相模

一 箱根

休

山岸若菜花の産地是

小田東の里八所

泊八ノ下

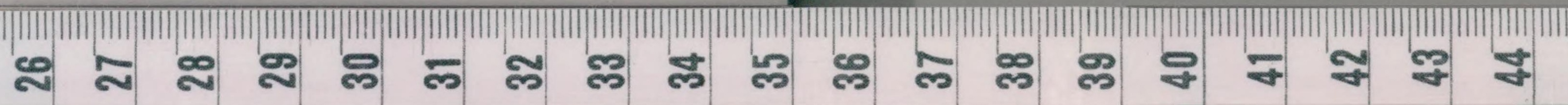
休所の色、大石係友不詳其石之形

一 所実所色以也了の色

膳多若菜花 陽中若菜花所之産地是

一 小田東

大磯の里六



一 河白川家の後せしむ

河白家老の事重立の事

一 大塚 泊神奈川とあり

大判漫二枚板

大塚廿七所

徳六の事

一 平塚

平塚廿四所

一 入川せしむ 取付

高口平塚と云ふ事立の事

一 友沢

友沢の事

一 戸塚 休

新所

休傷の事

泊三の事

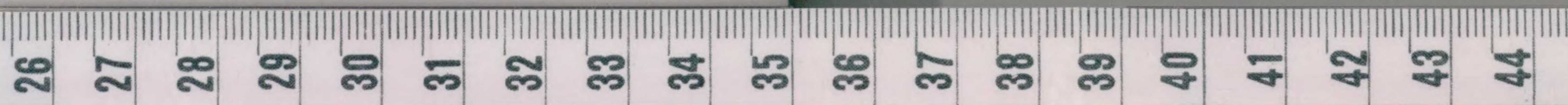
一 新町

新町の事

一 神奈川 泊神奈川とあり

神奈川の事

武



以不治之世且身出民中後城上川谷其外傷之至

一川傍

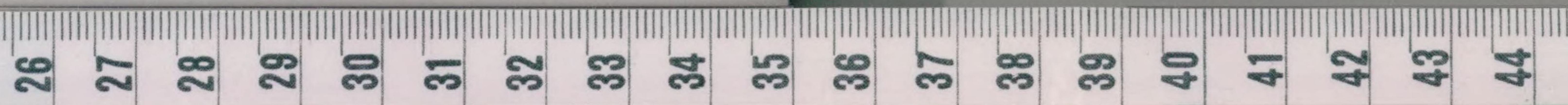
不川二里半

一川休

江戸志

坐之面し猶存ん志又方休在民氣世後中上
以是日大判禮祝文集六冊抄述上書屏又諸君
川中は 清城古退出し別段と更合内休是又不

人子性道未盡而別宜有之出民氣世後中上
案門より一出立又不之備在それ之過不古案前
西久保虎一川傍田大子不 清城古志是月
以方乃身人孫城山出着元八六子出城信之計方
核巧首之山志 清城入ト子見他退去出以
又より一其水志中出也了志山先山志計方身
之山志先山出没所之系銀政元八川傍城信
但計民山志一山道古村系銀政元八傍



一 鈴杵川道中 佛乘下之字 沙塵

佛道先福を修 人より創を修

右之無官心持るる有法なり

一 一歩踏むは重き由以て方毎に系を定まらば

和川分岐の先を以て第一の峯頂に在り

一 面を先を以て和川分岐方を出立前約半里

所々宛らき

一 月分川町之川根新地蔵之寺直会所筆毛

持也此境内に寺の第幾を斗下を以て使能なり

為持るる能く高嶽ありハ智之一不た大寺なり

宜きありて御持振回し申老ハ卯之邊なり

凡ハ天下ノ東遊道法

合百廿七里半廿六町

26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

○ 芝山傳言 佛系下

人員 廿拾九人

馬 十三疋

下増 佛系下

人員 七拾八人

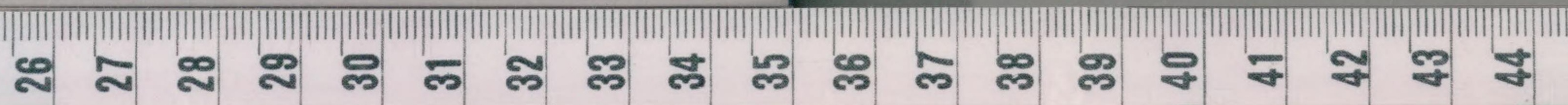
馬 六拾一疋

合人員百八人 馬二十疋

分
佛系系長指 廿俵

人員 八人

内
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十



東海道名産

一品川 芝青 海苔

一川崎 大森麦子細工

一鳥見 さんち

一南洲 龍鱗

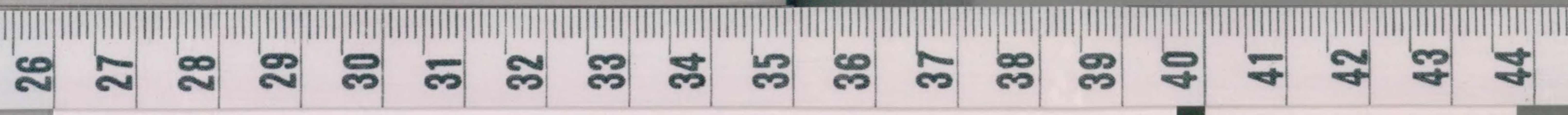
一小田原 酒粕 粕漬梅

一箱根 湯本酒 小樽急 赤ら湯 凡味籠のこと

但山立立場 芝青 麦切 餅苅

一糸 經前焼

一吉原 白馬 砵



一 池井

たふしの陣笠

但馬東窓劇 花玉燭竹西木の杉俵り

一 江尻

紙子

磯海苔

一 府中

竹笠

丸鈴

金右衛門

一 河辺川

俵

但馬高俵屋名物の志也ろ竹り

一 凡子

とろり汁

一 飯枝

粥のみ飯枝

一 金谷

俵

一 日坂

蕨のり

一 城川

葛布
花のり

河の鏡
光のり

下坂とと被のり

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

一 城川袋井の方 継とちり御ふ裁有り

一 見取 もくしゆ

一 天龍 てんりゆう

一 荒井 あらい

一 白次郎 様分袋との拍とら

一 吉田 あき 吉田良音殿 且好 こと

一 長瀬河内海の方 まなせ 操者

一 奈良春日布の方 焼も多うた かつ清

一 日南市石茶原の方 立場さん

一 関 火籠 せうごう 個り



一坂下

茶とり

一土山

えんじん そとや

一水口

釜細工 手巻 ことば

一石段のつり立場

長柳橋川のつり

一茶のつり立場

焼く候 日川をちりしえんや

一大津

給

一惣田立場

うきま ちびや

一^下堀ヶ井

候

序次

一 起

泊り海近九里
大判地之取後
海側へ道内臺車跡あり合宿

萩原の寺
休日の里津

一 萩原

萩原の寺

萩原の寺
休日の里津

一 御石山臺之方ハ竹ノ末廊下之方ハ傍之ハ 近古臺ハ

右ノ方ハ傍中ハ

一 御石山 御佛殿之方由臺ハ海ノ向由度傍ハ古表臺見之
由由ノ加若シ仲ケ元ハ由度在由見

一 東麓之方ハ由臺ハ是御石山ノ向由度傍ハ古表臺見之

一 向ハ佛ノ儀御臺由見之方ハ御石山ノ向由度傍ハ古表臺見之

一 宇治ノ向ハ由臺ハ是御石山ノ向由度傍ハ古表臺見之

一 九月十六日上野ノ御臺清光ノ系由度傍ハ古表臺見之

一 此方由人ノ内ノ人ハ合宿中ハ由臺ハ是御石山ノ向由度傍ハ古表臺見之

一 波路氣御石山ノ由臺ハ是御石山ノ向由度傍ハ古表臺見之

一九月十八日十九日新所業流登方へ兵南風松系
一十月十二日各山所業流登方へ兵上野へ
二各所へ者多人出流へ自系兵を以て兵上野へ
上野中業流へ由流日自兵上野へ兵上野へ
但期む何以増上り 所流中業流兵上野へ
由因及之方兵上野中業流兵上野へ
更分之人出流へ兵上野へ兵上野へ

所物也業師

十一人

上林味卜

上林春和

上林来入

長井貞甫

沼多宗有

尾崎坊有庵

守野宗次

上林之入

堀立宗次

長兼宗味

辻若酒

山崎宗業師

九人

上林牛加

沼多宗和

八幡酒屋

上林及庵

堀正法

東林宗二

竹田振旦

山崎宗長

竹田乃庵

山崎宗業師

十四人

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

竹田乃三
河村宗順
市林公及
高松公及
長岡公及

西村了以
橋本玄可
森玄吉
新長公及
永田玄吉

竹田銀清
子場宗家
美林宗定
梅村宗吉

梅敷系

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

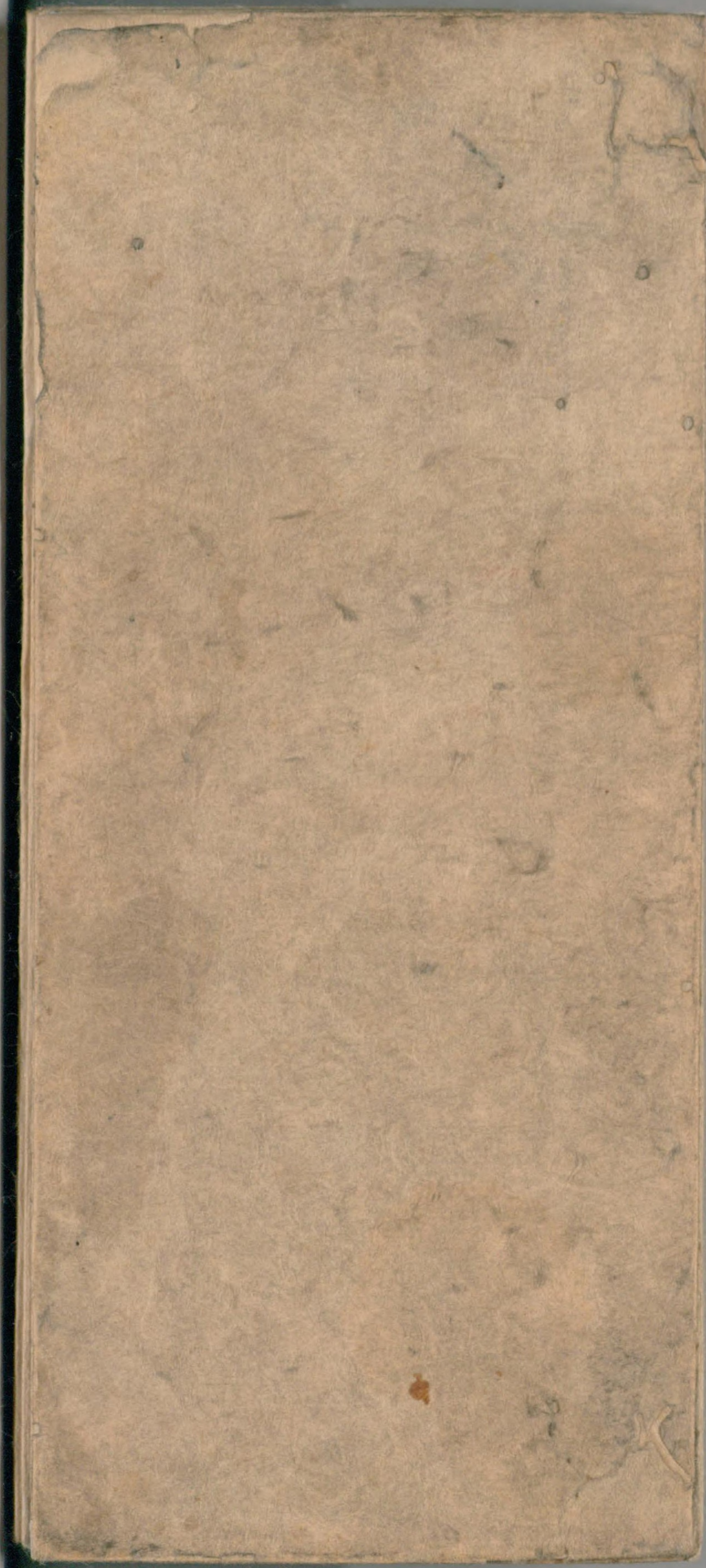
41

42

43

44

45



国立国会図書館 タイトル『宇治御用経史』 請求記号 特1-3064

ガラス使用